

# 会 議 概 要

会議の名称	平成28年度第3回社会教育委員会議
開催日時	平成28年12月22日(金) 13時30分 開会 15時30分 閉会
開催場所	湧別町文化センター さざ波 中会議室
出席者名	宮澤委員長、石垣副委員長、梅田委員、佐藤(あ)委員、 深谷委員、清水委員、森谷委員、三品委員、関谷委員 9名 教 委 ～岡崎課長、田中館長、中島副館長、根子補佐 杉森係長、北村係長、片桐主任、太田主任
欠席者名	多田委員、高柳委員、平野(寿)、平野(俊)委員、安瀬委員 佐藤(正)委員、緒方委員
傍聴人の数	なし
会議の内容	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 議 事 議案第1号 平成29年度社会教育事業について 議案第2号 第2次社会教育中期計画の策定について 4. その他
会議資料	平成28年度第3回社会教育委員会議議案
会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ( <input type="checkbox"/> 全文筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 ) <input type="checkbox"/> 無
備考	

## 結果要旨

### 1. 開 会

### 2. 委員長あいさつ（宮澤委員長）

### 3. 教育長あいさつ（教育長が管内教育長会議のため不在につき、岡崎課長よりあいさつ）

### 4. 議 事

#### ●議案第1号 平成29年度社会教育事業について→各担当より説明→了承

訂正・・・ P10 子ども会フットベース 期日・会場⇒7/2（日）湧別小グラウンド

子ども会駅伝大会 期日⇒8/27（日）

子ども会ミニバレー 期日⇒10/1（日）

#### ●議案第2号 第2次社会教育中期計画の策定について

（宮澤）4年前はものすごいエネルギーで計画を作った。毎週、無報酬で会議を行った。一度、社会教育委員でふり返り、検証が必要ではないか。

（石垣）教育委員会事務局より頂いた事業等の取り組み状況（ふりかえり）は社会教育委員が検証したものではないので、社会教育委員が話し合い、検証するべきであると思う。

（岡崎）12月（今回）から3月までに事業の評価・検証を行い、次年度に社会教育委員の改選があるので、新たな委員にて第2次中期計画の策定を行ってはどうか。

（宮澤）どのような方法で、検証を行ったらよいか。全体で行うか、部会に分かれて行うか。

→部会にわかれたほうが、ざっくばらんに話すことが出来る。

→今回、計画に初めて参加するので、まず全体で話をして、全体の流れをお聞きしたい。  
（多数）

→前回の計画で、会議に参加されどういった思いやねらいで計画を立てたのかお聞きしたい。

→検証には時間が必要、12月と3月の2回では、時間が足りない。

（宮澤）それでは、全体で検証・ふり返りを行うことでよろしいか。

また、話し合いの時間が少ないので、1月後半に会議を行うことでよろしいか。

→了承

では、閉会予定時間まで時間があるので、出来る所まで進みましょう。

## ●家庭教育

「子どもは町の宝 手を取り合い、支え合って育てよう」

・学習機会の提供

(清水) 学校からチラシや学校だよりがたくさん来る。

グループでの参加→一人が行かないと言ったら皆行かない

個人での参加→参加者同士コミュニケーションが生まれる(関心があるものが集う)

(関谷) 本当に支援・教育が必要な人は研修会等の事業には参加しないし、チラシも見ない。

必要としている人に積極的にアプローチすることが必要

例えば、福祉と連携し、親がかならず来る町の検診での事業等

(梅田) 保護者に必要な情報の提供が必要

学校だよりには、校長先生のお話など良い情報が書いてあることが多い。各学校だよりをひとつにして情報誌にしてみてもどうか。家庭教育の情報源となるのではないか。

(岡崎) 合併前は、上湧別地区では生涯学習情報誌に各学校の便りをまとめて掲載していた。

(清水) 保護者は学校だよりを読んでいないことが多い。本当に見てほしい人は見ていない。子どもも、親が見せなさいと言わないから、学校からプリントをもらっても出さない習慣が出来てしまっている。

(石垣) 情報は出し続ける努力をすることが必要。

(清水) どうやったら見てもらえるか、親だけでなく子どもが見て面白いと思わせるような情報を掲載することが必要。

(深谷) 子どもは親と共有したい。そういった記事があれば、親子で話し合える。

・活動等の支援

(宮澤) ママとキッズのオープンブックカフェでは、毎回、図書館に支援を頂き感謝している。

・学習環境づくり

家庭教育学級は、上湧別、中湧別、開盛、富美の小学校には開設されているが、湧別、芭露小では、開設するに至っていない。

(関谷) 芭露小はPTAで同じような取り組みを行っている。

(岡崎) 湧別小は合併の時に打診してみたが、人数が多いこともあり、学校側に受け入れてもらうことは出来なかった。

(宮澤) 保護者が家庭内の問題などプライベートな問題を話し合うことは、非常にデリケートなので、ルールづくりや指導者が必要。

以降は次回協議とする 終了(15時30分)

※次回、1月～2月の間に会議を開催し、全体での検証の続きを行う。(事務局で日程調整し後日委員へ案内する) その議案は今回の「ふりかえり」の議案を使用する。会議の進め方については、前段に各分野ごとに担当から要点のみ説明してから議論に入る。

※生涯学習実践交流セミナー(H29.2/16～2/17 札幌市)参加希望を伺ったところ、宮澤、関谷委員が希望された。

平成28年度

## 第3回社会教育委員会議案

と き 平成28年12月22日(木)  
午後1時30分～

ところ 文化センターさざ波 中会議室

### <会議日程>

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 議 事

議案第1号 平成29年度社会教育事業について

別紙 平成29年度社会教育事業計画(案)等参照 P 3 ～P 1 2

議案第2号 第2次社会教育中期計画の策定について

①策定までのスケジュール P 1 3

②第1次社会教育中期計画のふりかえり P 1 4～P 2 4

4 その他

・平成29年度社会教育委員研修会・会議について P 2 5

5 委員長あいさつ

6 閉 会

湧 別 町 教 育 委 員 会

## 社 会 教 育 委 員 名 簿

役 職	氏 名	住 所	出欠	備 考
委員長	宮 澤 道	北兵村二区		
副委員長	石 垣 誠 一	港 町		
	梅 田 唯 士	上湧別屯田市街地		
	平 野 寿 雄	上湧別屯田市街地		
	多 田 恵 美 子	緑 町		
	佐 藤 あ け み	登栄床		
	深 谷 聡	計呂地		
	清 水 ま き	南兵村三区		
	高 柳 雅 一	北兵村二区		
	森 谷 和 洋	中湧別東町		
	三 品 博 恵	南兵村三区		
	平 野 俊 幸	南兵村二区		
	安 瀬 勇	上湧別屯田市街地		
	緒 方 隆 人	北兵村一区		
	関 谷 正 樹	芭 露		
	佐 藤 正 行	中湧別南町		

### 教育委員会

教育長 牧野裕司

社会教育課長 岡崎公俊、課長補佐 根子敏男

社会教育係長 杉森伸一、社会教育係主任 太田雅史

スポーツ振興係長 藤本祐司、スポーツ振興係主任 片桐圭輔

文化振興係長（根子敏男）、文化振興係主任 土佐信太郎

図書館長 田中 仁、管理係長 高橋結香梨

奉仕係長 北村公樹、奉仕係主任 茂利泰史

ふるさと館 J R Y 館長（田中 仁）、副館長 中島一之、学芸係 林 勇介

平成29年度社会教育事業計画（案）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額
基 盤 整 備	生涯学習情報の収集・提供・相談体制の充実	年間	—	○情報収集と提供 ・生涯学習情報紙「湧く湧く」の発行（毎月） ・遠軽地区情報紙「なな・なんと情報」の発行（2カ月に1回）（遠軽町が当番町） 28年度よりカラー印刷 ・町ホームページによる事業PR ○相談体制の充実 ・学習に関する相談を受けられる体制整備に努める。	「湧く湧く」 印刷費 1,011千円 「なな・なんと情報」 負担金200千円 （印刷費）
	指導者の発掘・養成・活用	年間	—	多様化する住民の学習要求に対応するため、様々な分野から指導者を発掘養成し、その活用を図る。	—
	団体活動の支援・育成	年間	—	団体リーダーの養成を図るとともに、団体活動が円滑に行われるよう支援を行う。	—
	生涯学習振興奨励事業	年間	—	（生涯学習住民活動推進事業） 町民によるグループ・サークル等が自主的に町民に対して行う講演会や鑑賞会などの学習活動に対して助成を行う。 （補助率75%、ただし極めて公益性が高い場合は100%）	4件 390千円
	施設の整備・運営・連携	年間	—	施設の計画的な補修や整備を行うとともに事業連携・施設間連携により学習効果の向上を図る。	整備計画別紙
家 庭 教 育	家庭教育研修会	12/10 （日）	未定	家庭教育学級の会員及び児童生徒を持つ親が一堂に会し、家庭教育の大切さについて学習を深める機会を提供する。	講師謝礼 100千円 需用費13千円
	家庭教育学級の活動支援	年間	各学校ほか	学校単位で開講している家庭教育学級の自主的な学習活動の活発化、また今日的課題への対応など親の姿勢や役割についての学習が深まるよう支援する。湧別地区小学校及び中学校の設立について呼びかけをする。	運営費助成 20千円×5学級 =100千円
	家庭教育推進員会議	7月 11月 教頭会議後	文化センター さざ波	家庭教育機能の充実を図るため各小中学校教頭を家庭教育推進員に委嘱し、情報交換や今後の方策を探り、家庭教育力向上に努める。また家庭教育推進員を中心に保護者を対象とした家庭の教育力を高める学習機会提供に努める。	—
	家庭教育相談	年間	相談室ほか	教育アドバイザーによる子育ての不安や悩みについて身近に相談する機会を提供する。	—
少 年 教 育	児童宿泊研修会	6/15(木) ～16(金)	ネイパル 北見	5年生児童を対象に、自然の家の様々な自然体験活動と、宿泊を伴った集団生活を通して、自立・協調・奉仕の尊さと喜びを学ばせることで、社会性を培うとともに、学区外児童の友好と親睦を深める。H28から湧別地区も加わり、全域が対象	1人2,500円 1/2助成 94千円
	子ども会の育成・援助	年間	—	各地区の子ども会やその連合組織である青少年指導センターの活動を支援し青少年健全育成に努める。	補助金 400千円
	第1回子ども会リーダー研修会	7/27(木) ～28(金)	五鹿山公園	地域子ども会が自主的、主体的な運営と活動が進められるよう、地域子ども会の役割を認識させるとともに、リーダーとしての心構えや自覚を促し、そのために必要な知識や技術を習得させる。	青少年指導センター会計から支出
	第2回子ども会リーダー研修会	3/26(月) ～27(火)	紋別林-ツク青年の家		

平成29年度社会教育事業計画（案）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額
少年教育	北海道ジュニアリーダーコースへの派遣	未定	ネイパル北見	道教委主催の研修会に各市町村から中学生・高校生を派遣。フィールドワークやワークショップ等を通して地域活動やまちづくりに参画する青少年リーダーを養成する。	参加経費等10千円 ×2人=20千円
	新春交歓カルタ大会	1/21(日)	農村センター	日本古来の伝統の遊びを通して、ルールを守る大切さや礼儀作法を身につける機会とする。	報償費32千円 需用費60千円
	湧別町・新篠津村友好都市交流事業	8/2(水)～4(金)	湧別町	両町村の児童の派遣活動を行い、自然体験学習や産業体験学習を通して、お互いの町の自然や産業等の違いや魅力を学び、交流の輪を広げる。リーダーとして、中・高校生を参加させる。	報償費80千円 需用費138千円 役務費16千円 使用料39千円
	少年少女体験学習事業「ふるさと寺子屋塾」	年間	文化センターさざ波ほか	各種体験学習等を通じ、集団生活や社会生活、地域を学ぶ機会を提供し、リーダーとしての役割や協調性を育成する。(年間5,000円の登録制)	報償費42千円 需用費15千円 役務費20千円
青年教育	青年団体の育成・援助	年間	青年会館ほか	自主的な活動を展開している青年団体協議会の活動支援に努める。子どもを対象とした冬季事業などを開催し、地域を活性化する活動を行っている。	補助金 160千円
	成人式	1/7(日)	文化センターさざ波	新成人を祝い励ますとともに、式を契機に社会人としての意識高揚を図る。 ※現小学6年生に「20歳の自分へ」の作文収集	報償費486千円 需用費31千円
成人教育	湧別町民大学	9月～11月	文化センターTOM	各ジャンル講師を招き、今日的課題や地域課題等の解決に向けた学習機会提供に努める。実施は実行委員会方式。今回で41年目。	運営費助成 2,000千円
	第7回ふるさと講座	未定	未定	湧別町にこだわった歴史、産業、地域等について学ぶ機会を提供する。 ふるさとから学ぶ会との共催。	講師謝礼 20千円
	第6回我がまち湧別町のお宝をたずねる旅	未定	町内	町にある、お宝の魅力、すばらしさ、価値を知る方々がおすすり人となり、町のお宝をバスツアー形式でたずね歩く。	講師謝礼 10千円
	PTA団体への援助	年間	—	各学校のPTAやその連合組織である町PTA連合会の学習活動を支援する。	補助金 180千円
	ボランティア団体との連携	年間	文化センターさざ波ほか	はまなすボランティアサークルは自主的に奉仕活動を行っており、必要に応じて学習活動を支援する。	—
高齢者教育	寿学級の開設(上湧別地区)	年間	文化センターTOMほか	高齢者が生きがいと充実した生活を送ることができるよう学習と活動の機会提供に努める。(平成30年度の統合を目指し協議を行っている)	報償費270千円 需用費229千円 借上料910千円
	生きがい大学の開設(湧別地区)	年間	文化センターさざ波ほか		
	世代間交流事業・社会活動参加奨励	年間	学校ほか	小中学校の総合的な学習への支援など高齢者の持つ豊かな知恵・技術を活用する場の提供に努めるとともに相互の交流を図る。	—



平成29年度社会教育事業計画（案）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額
芸術・文化活動の振興	文化団体の育成援助	年間	—	芸術文化活動の振興を図るため文化連盟等の育成援助を行う。	補助金 450千円
	鑑賞機会提供団体の育成援助	年間	文化センター	A.良いもの見よう聞こう会の活動支援 B.企画委員会ビッグ・ウェーブの活動支援 C.その他実行委員会等への活動支援	補助金 11,000千円
	鑑賞機会の提供	未定	児童センター	幼児対象（2日2公演） 公演内容 未定	公演料 500千円
		未定	文化センターTOM	小学生対象（1公演） 公演内容 未定	公演料 500千円
		未定	文化センターさざ波	中学生対象（1公演） 公演内容 未定	公演料 500千円
	子どもミュージカル体験事業	1月上旬	文化センターTOM	子どもを対象に、専門家の指導によるミュージカル演劇の練習から発表までを体験することにより、芸術文化を楽しめる素養を養い、コミュニケーション力の向上と連帯感の醸成を図る。	事業費 1,100千円
	文化芸術作品展示会等の奨励	年間	文化センター	湧別町文化連盟加盟団体や町民個人を中心に、絵画や写真などの展示を実施し、芸術文化活動の振興を図る。	—
カルチャー教室	年間	町内施設	子どもから大人までを対象に趣味や一般教養など町民のニーズに合った講座等の開催に努める。	講師謝礼 70千円	
大会の開催等	第32回サロマ湖100kmウルトラマラソン	6/25	湧別総合体育館裏	100kmスタート午前5時00分（100kmの部） 総合体育館裏（東道路上）	負担金3,000千円
	湧別町少年柔道大会「上野カップ2016」	10/8	湧別総合体育館・武道館	本町のふるさと応援大使であり、柔道オリンピックメダリストの上野姉妹の冠を掲げた全道規模の小・中学生の柔道大会を開催することにより、少年相互の親睦を深め、町の活性化や交流人口の増加を図る。 参加規模：道内外小・中学生400名 大会には上野姉妹のほか、現役の女子柔道の著名人を招致する予定。	歳入総額 685千円 歳出総額 4,814千円
	町民体カテスト	11月予定	文化センターさざ波	町民に対してスポーツや運動を継続して続けることの大切さや健康づくりを高めるきっかけづくりを図る。	スポーツ推進委員報酬60千円
	第41回町民300歳バレーボール大会	12/3	湧別・中湧別総合体育館	自治会対抗形式9人制バレーボール大会	消耗品26千円
スポーツ教室・講習会事業	ジュニアスイミングスクール	7月	湧別プール（第1回）	正しい泳法を習得させるとともに、泳ぐことの楽しさを味わわせ、水泳の普及拡大を図る。	講師謝礼 48千円 スポーツ推進委員報酬24千円
		9月	湧別プール（第2回）		
	ノルディックウォーキング講習会	未定	百年記念広場	正しいウォーキング方法により、安全で効率の良い運動を継続して行えるよう、ポール使用に関する基礎知識を学ぶ。 講師：ノースヒーロー 高倉 孝良 氏	講師謝礼40千円
	町民ランニング教室	未定	未定	ランニングやウォーキングの基本姿勢から高度な技術、さらには運動前後のストレッチを習得することで、運動能力の向上や怪我の予防、運動を始めるきっかけづくりを図る。 講師：作、AC北海道 代表 作田 徹 氏 サポート：作、AC北海道 菊地 真司 氏 対象：中学生～一般（2回程度の教室を予定）	講師謝礼100千円 （2名分の謝礼）
	少年少女初心者スケート教室	1月中旬	湧別町芭露スケートリンク	初心者に対してスケートの楽しさを味わわせるとともに、技法を習得させる。	スポーツ推進委員報酬32千円
	クロスカントリースキー教室	1月下旬	五鹿山スキー場	スキーの楽しさを味わわせるとともに、初心者から上級者まで幅広い技法を習得させる。 講師：阿部雅司（リレハンメル五輪金メダリスト）	講師謝礼 50千円 スポーツ推進委員報酬9千円

平成29年度社会教育事業計画（案）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額
スポーツ推進委員事業	チャレンジスポーツスクール事業	5月～3月	湧別総合体育館他	低学年から様々なスポーツに触れることで、自分に合ったスポーツを見つけ出すきっかけづくりと、学校を越えた友達づくりの一助とする。 5月 入学式・ドッジボール（湧別総合体育館アリーナ） 6月 フットベース（湧別総合体育館裏） 7月 室内雪合戦（湧別総合体育館アリーナ） 7月 キャンプ（湧別総合体育館裏） 9月 ポートボール（湧別総合体育館アリーナ） 10月 小運動会（湧別総合体育館アリーナ） 11月 バドミントン（湧別総合体育館アリーナ） 12月 フロアボール（湧別総合体育館アリーナ） 1月 スケート&氷上ホッケー（芭露スケートリンク） 2月 タグラグビー（湧別総合体育館アリーナ） 3月 卒業式・風船バレー（湧別総合体育館アリーナ）	講師謝礼 フロアボール 10千円 タグラグビー 10千円 スポーツ推進委員 報酬273千円
	巡回スポーツ指導	随時	町内	自治会・老人クラブ等にスポーツ推進委員が出向き、軽スポーツやレクリエーションの指導を行う。	スポーツ推進委員 報酬24千円
	スポーツ推進委員研修	随時	-	必要に応じてニュースポーツ等の研修により資質向上を図る。	-
団体活動の育成援助等	少年スポーツ団体の育成援助	年間	-	少年団本部への補助	補助金600千円
	一般スポーツ団体の育成援助	年間	-	体育協会への補助	補助金685千円
	大会出場助成	年間	-	全道大会以上の出場者に対して遠征費の一部を助成する。 （湧別町スポーツ・文化遠征費補助金）	補助金2,000千円
	合宿誘致助成	年間	各施設	合宿を誘致することにより町のスポーツの振興を図る。 （湧別町スポーツ・文化合宿誘致事業補助金）	補助金2,504千円 合宿内容については別紙のとおり
施設の整備活用その他	施設の整備	年間	各施設	施設の点検、適正な維持管理を図る。	主要なものについては別紙のとおり
	施設の活用	年間	各施設	指定管理施設の適正かつ効率的な運営に対する監督、学校開放施設に関する利用調整など体育施設の有効活用を図る。	-
その他	スポーツ安全保険の加入促進	随時	-	広報及び事故手続き等の補助	-
図書館活動	図書館資料の収集、整理、保存	通年	両館	・町民ニーズに合った図書、逐次刊行物、視聴覚資料等を計画的に幅広く、豊富に備え、保存する。常に新鮮で適切な蔵書構成を維持する。 ・本の修理ボランティア活動	資料費（図書、雑誌、新聞、視聴覚） 8,280千円
	利用促進、読書機会の提供	通年	両館	調べものの相談、案内を通して利用促進を行う。 ・小中高連携、学校支援の強化 ・図書館見学の受け入れ ・インターンシップ ・特別開館（春、夏、秋、冬休み期間の月曜日）	-
				新着図書案内や図書館行事など、最新情報の提供に努める。 ・図書館だより、新着図書案内の発行 ・ホームページの活用	消耗品費 800冊

平成29年度社会教育事業計画（案）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額
図書館	ブックスタート	毎月1回	健診会場	4ヶ月児健診時に、乳児とその保護者へブックスタートバック（絵本などが入ったバック）をメッセージと共に手渡す。 協力（バック制作） ・ルピナスの会 協力（読み聞かせ） ・こぐま会 ・リーディング倶楽部たんぼぼ ・湧高ボランティア同好会	報償費 60人分 83千円
	絵本くらぶ	年間 (毎月1回)	両館	家庭での読書普及活動	
	第8回湧別町読書感想文・感想画コンクール	6月～3月	両館	読書に親しみ、読書の楽しさを体験するとともに、読後の感動を文章や絵画に表現することとおして、豊かな人間性や考える力を育む機会とする。 ①募集期間 7月～10月（応募〆切10月上旬） ②対象 ・小学生 読書感想画（1～3年生） 読書感想文（4～6年生） ・中学生 読書感想文（1～3年生） ・高校生 読書感想文（1～3年生） ③審査委員会議 11月下旬 ④読書感想画展示会 12月～1月 ⑤入選作品発表 12月上旬 ⑥入賞作品集発行 2月下旬	報償費 212千円 印刷製本費 文集 86千円
館	子ども図書館講座	10月	各館	小学生を対象に調理実習を行いながら図書館に親しむ機会とする。 協力 ・保健福祉課栄養士 ・リーディング倶楽部たんぼぼ ・湧高ボランティア同好会	報償費 10千円 (調理指導謝礼)
	読み聞かせ	年間	両館	対象 ・0歳児：ブックスタート事業 ・0歳児～小学生：図書館、児童センター、学校等  協力 ・読み聞かせボランティア「りんごっこ」（4名） ・こぐま会（3名） ・リーディング倶楽部たんぼぼ（11名） ・湧高ボランティア同好会（7名）  場所 ・芭小（こぐま会） ・湧小（リーディング倶楽部たんぼぼ） ・子育て支援センター ・児童センター ・オープンブックカフェ  読み聞かせボランティアと連携し、定期的な読み聞かせ活動を実施する。また、湧高ボランティア同好会生徒への読み聞かせ指導を行う。	—
動	映画上映会	通年(毎月1回)	湧別図書館	・湧別図書館の多目的室を活かし定期的に映画会を行う。	消耗品 200千円 (DVD)
	古本市	9月	中湧別図書館	古本、古雑誌のリサイクル活動。 協力：湧高ボランティア同好会	—
	特別展示	9月～10月	両館	町民大学講師著作展示	—
		年間	両館	テーマ：年中行事	—
	4/23～5/10	中湧別図書館	子ども読書週間「くまのがっこう」特別展示		

平成29年度社会教育事業計画（案）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額
図書館	特別展示	4/23～5/10	湧別図書館	子ども読書週間「しげちゃん一座公演事業」関連展示	
		未定	両館	ブックスタート10周年記念展示	
		未定	中湧別図書館	屯田兵入植120周年展示	
		年間	両館	協力展示（展示スペースの貸出）	—
図書館	移動図書館車の運行	通年	両館	移動図書館車で町内を巡回し、広域サービスを実施する。機動性を活かし遠隔地域を中心に据え、子どもから大人まで図書に出会う場を広げ、読書活動の推進を図る。図書館職員が選本した文庫を配本する。 ・各小中学校 ・各郵便局 ・児童施設 ・高齢者施設等	学校用ブックポスト 119千円
活動	連携・ネットワーク	通年	両館	町内各施設や関連部署、近隣市町図書館との広域連携を図る。 ・紋別遠軽ブロック研修 ・学校図書館連携 ・こども読書推進計画策定 ・図書館協議会委員視察研修 ・就学時健診「絵本講座」 ・遠紋ブロック共同事業（「原画展示会」「講演会」） ・高齢者向宅配本事業計画立案	負担金 30千円 （借上料） （報償費）
文化財保護活動	文化財の保護① 埋蔵文化財	年間	町内各所	○開発行為に伴う埋蔵文化財の保護活動 ・開発事業者との事前協議と各種調査 ・「周知の包蔵地」の効果的な周知方法の検討 ○埋蔵文化財包蔵地の状況把握 ・現状確認作業 ◎シブノツナイ竪穴住居跡の再調査支援 3カ年計画3年目（測量・発掘 北海道教育委員会） ○新発見遺跡の今後の保存協議検討 北海道教育委員会との協議	
	文化財の保護② 自然関連	年間	町内各所	○北海道指定文化財アッケシ草群の経過観察 ・標柱の更新 ○記念木の点検 ○オジロワシ現状変更手続（死亡・剥製）	
博物館活動	博物館資料① 収集	年間	郷土館・ふるさと館JRY	○資料寄贈への対応 （おおむね昭和20年代以前の資料を対象） ○大型資料受入停止	
	博物館資料② 整理・保管	年間	郷土館・ふるさと館JRY・収蔵庫	○考古資料 ◎重要資料における資料台帳の作成 （湧別市川遺跡資料） ・シブノツナイ竪穴群出土土器点検 ○開拓関連資料 ・文書資料の整理デジタル化 ○収蔵庫の管理と保管資料の状況確認 ・分類整理（同種資料整理） ・資料外保管物の処分 ・郷土資料収蔵館収蔵量増加 ・計呂地収蔵資料の整理	
	博物館資料③ 展示	年間	郷土館	○収蔵資料の展示 ・湧別市川遺跡出土資料の展示「縄文文化のお墓」（仮） ・展示資料の防犯対策検討 ○郷土館ボランティアガイドによる展示解説 （5月～9月）	
ふるさと館JRY			○特別展示「屯田兵の入植120周年（仮）」 ○収蔵展示室整備		

## 平成29年度社会教育事業計画（案）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額
博物館活動	調査研究	年間	—	<p>【博物館資料の付加価値を高め、より効果的な情報公開を行うための学術的な研究及び資料調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○開拓の歴史               <ul style="list-style-type: none"> <li>・開拓期の衣食住</li> <li>・冬期の生活</li> </ul> </li> <li>○先史文化               <ul style="list-style-type: none"> <li>・シブノツナイ竪穴住居群出土土器の図化（道埋文共同）</li> <li>・シブノツナイ2遺跡資料の土器胎土分析（道埋文共同）</li> </ul> </li> </ul> <p>【文化財の保存に関する専門的及び技術的な調査研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○開拓の歴史               <ul style="list-style-type: none"> <li>◎屯田資料                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・文書資料等の研究活用（図書館と連携）</li> <li>・明治40年湧別村史</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○先史文化               <ul style="list-style-type: none"> <li>・シブノツナイ竪穴住居群保護のための集落研究</li> <li>・遺跡を活用した博物館教育論の研究</li> </ul> </li> </ul>	
	博物館教育 研修・学校授業	年間	郷土館・ ふるさと 館JRY	<p>【博物館が持つ過去の生活情報の内、日常生活に活用できるものを体験学習化する。町内各学校授業や各種研修会等で歴史学習の機会として提供する】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○開拓の歴史               <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働体験（薪作り）</li> <li>・炊飯体験（薪ストーブ・羽釜）</li> <li>・開拓期の衣体験</li> <li>・屯田生活体験館の活用（食住）</li> </ul> </li> <li>○先史文化               <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺跡を理解するモノづくり学習（土器・勾玉）</li> <li>・遺跡フィールドワーク</li> <li>・「シブノツナイ竪穴住居群の調査報告会」（仮） *調査成果に応じて道埋文と実施について協議する</li> </ul> </li> <li>○広報記事作成発行（博物館だより）</li> </ul>	

平成29年度 関連事業（後援・連携事業等）

団体名	事業名	期日	場所	計画内容等	備考
青少年指導	子ども会フットベースボール大会	7/2 (日)	湧別小グラウンド	スポーツを通してルールを理解し仲良く遊ぶ態度、フェアプレー精神を培うとともに、子ども会の活性化を図る。	
	子ども会交通安全駅伝競走大会	8/27 (日)	開盛小→ 中湧別小	小中学生が、一つのチームとなり走ることで、子ども会内の絆を深めるとともに、地域の交通安全啓発を行う。	50回記念大会
	子ども会ミニバレーボール大会	10/1 (日)	中湧別総体ほか	スポーツを通してルールを理解し仲良く遊ぶ態度、フェアプレー精神を育て、子どもの健全育成を図る。	
センター	遠軽ブロック子ども会スポーツ交流会	未定	遠軽町	スポーツルールを正しく守り、仲良く遊ぶ態度やスポーツを愛好しようとする気持ちを育てるとともに、地域子ども会の活性化と子ども会会員同士の交流を図る。	
	子ども会リーダー研修会	7/27~28 3/26~27	五鹿山公園 紋別林-ツ青年の家	社会教育事業 少年教育参照	
事業	中高生リーダーの養成	年間	ふるさと館JRYほか	中学生リーダークラブ「E=QV L（イークアル）」及び高校生リーダークラブ「Rainbow prop（レインボープロップ）」等の活動を支援し、子ども会リーダー研修会の企画会議から準備、当日の運営を任せるなど活躍の場を与え、育成に努める。	
	青少年問題協議会の開催	2月	文化センターTOM	青少年の指導育成、保護、矯正に関する総合的な施策の樹立と実施に必要な関係機関の協議および連絡調整を図る。	
町民会議	青少年健全育成町民会議事業	年間		青少年のたくましく健全な成長と青少年問題の理解を深めるとともに青少年の健全育成を図る。①あいさつ運動②指導、補導③青少年だより発行④優良青少年表彰	
文化連盟	上湧別地区総合文化祭	芸能の部 10月中旬 展示の部 10月中旬	文化センターTOM	町内の芸術・文化関係者による日頃の活動成果の発表の機会と、町民に芸術・文化活動にふれてもらい文化の振興、発展を促します。	
	湧別地区総合文化祭	芸能の部 11月上旬 展示の部 11月上旬	文化センターさざ波		
良いもの見よう聞こう会	芸術鑑賞会	通年	文化センターTOMほか	未定	

平成29年度 関連事業（後援・連携事業等）

団体名	事業名	期日	場所	計画内容等	備考
ビッグ・ウェーブ	芸術鑑賞会	通年	文化センターさざ波ほか	未定	
実行委員会	北柔会関連道場柔道合宿	未定	湧別武道館	柔道合宿のほか、町内の子ども達に対する柔道教室や指導者向けのセミナーを開催することで、柔道の普及、交流人口の拡大を図る。 講師：上野法美氏、上野和香子氏 合宿予定人員：80名（指導者含む）	
	厚別アトムズ合宿（少年野球）	未定	湧別球場	練習試合をメインとした合宿で、町内野球少年団との交流により、スポーツに対する意欲の向上を図る。 合宿予定人員：40名（指導者含む）	
	駒大苫小牧高校野球部合宿	未定	湧別野球場ほか	名門野球部を誘致し、近隣市町村を含めた高校との練習試合を町内で開催することにより、町民のスポーツに対する興味・関心を引き、スポーツによる町の活性化を図る。 合宿予定人員：90名	
	北海学園大学陸上部合宿	未定	未定	陸上（中・長距離）部の合宿に併せ、町民に対する教室を開催することで、交流人口の拡大や町内の部活動生を始めとするランニング愛好家の質の向上を図る。 合宿予定人員：15名	
	ニュージーランド合気会合宿	未定	湧別武道館	合宿中に行われる公開練習や演武会、教室等の開催により合気道の普及を図るとともに町民との国際的な交流を図る。 合宿予定人員：35名	
	バレーボール教室	未定	中湧別総体ほか	少年団、中・高校生、一般女子を対象としたバレーボール教室を開催し、本町におけるバレーボールの普及及び技術の維持・向上を図る。 講師：小田急バレーボールクリニック 事務局長 岩本 洋氏	
	湧別原野林-ツクノスカントリー大会	2/25	遠軽町→湧別町	原野コース85km、北大雪コース60km、白滝ジオパークコース37km、遠軽コース23km、湧別コース25km、5kmコース、駅伝コース100km	

平成29年度社会教育施設整備計画（主要なもの）

（単位：千円）

施設名	改修・整備等内容	事業費	備考
農村環境改善センター	暖房機取替	346	備品
文化センターさざ波	中央監視盤改修工事	6,800	
	建物塗装工事	8,500	
	調光設備取替工事	33,000	
	ノートパソコン1台	308	備品
文化センターTOM	グラニットボール修繕	554	
	自動制御器修繕	391	
	ロビー暖房機修繕	788	
	暖房設備改修工事	18,200	
	ロビーLED化改修工事	4,400	
	おむつ交換台1台	279	備品
湧別総合体育館	スポーツインストラクター配置 コンサドーレより1名配置 期間：7月～3月まで月2回	1,376	指定管理委託料に上乗せ
	トレーニング機器借上（5年リース） トレッドミル、アップライトバイク インパクトチェストプレス インパクトラットプルダウン インスチンクトペクトラルフライ/リアデルト インスチンクトレックプレス/カーフ インスチンクトレックエクステンション/カーフ 各1台（合計7台）	1,196	9ヶ月分
	デジタル自動血圧計購入（トレーニングルーム）	21	消耗品
	業務用体重計購入（トレーニングルーム）	67	備品
	トレーニングルーム配線修繕	64	
	湧別プールブレース取替工事	4,960	
	温風暖房機購入（武道館）	330	備品
中湧別総合体育館	非常用予備発電機バッテリー取替修繕	454	
	温風暖房機購入（事務所）	206	備品
中湧別野球場	LEDカウントボード設置工事	3,440	
上湧別ソフトボール場	HID投光器取替修繕	356	
中湧別屋内ゲートボール場	人工芝張替工事	10,480	
湧別屋内ゲートボール場	ストーブ購入（2台）	1,740	備品
湧別運動公園	パークゴルフ場用コース案内板購入	179	消耗品
河川緑地公園パークゴルフ場	プレハブ等移設・設置	592	
	原状回復工事	14,570	
中湧別図書館	ブックポスト 2台	119	学校用備品
	児童コーナーブラインド	161	修繕
	書棚錠前取付修理	34	修繕
湧別図書館	水中ポンプ一式	38	備品
	東屋修理（土台）	99	修繕
	東屋修理（塗装）	256	修繕
	館名看板修理	87	修繕
	合計	114,391	



第2次社会教育中期計画 2018～2022（平成30年度～平成34年度）策定までのスケジュールについて（案）

時 期	内 容
平成28年12月22 （第3回定例会議）	第1次社会教育中期計画のふりかえり
平成29年3月 （第4回定例会議） （平成29年4月）	12月の会議に積み残しがあれば再協議・まとめ （社会教育委員改選期）
平成29年4月	教育委員会から社会教育委員の会へ計画策定の諮問
平成29年 月	①「現状と課題」（素案）の協議・まとめ （部会ごとに1～2回程度） （素案は第1次計画の内容および12月のふりかえりから出た課題をもとに事務局で作成。）
平成29年 月	②「推進目標・推進項目」（素案）の協議・まとめ （部会ごとに1～2回程度） （素案は第1次計画の内容および12月のふりかえりから出た課題をもとに事務局で作成。）
平成29年12月	③計画全体のまとめと最終調整・社会教育目標の確認
平成30年 1月	パブリックコメントの募集（約1ヶ月）
平成30年 3月	教育委員会へ答申、策定・印刷・発行

部会構成について【5部会】

- 1 生涯学習の基盤整備・社会教育施設・少年教育活動・青年教育活動
- 2 家庭教育活動・成人教育活動・高齢者教育活動
- 3 芸術文化活動・博物館文化財活動・文化施設
- 4 図書館活動（図書館協議会委員を中心に運営）
- 5 スポーツ活動・スポーツ施設（スポーツ推進委員を中心に運営）

第1次社会教育中期計画における『課題解決のための方策』に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）

（推進目標と推進項目）

家庭教育推進目標		子どもは町の宝 手を取り合い、支え合って育てよう	
項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）	
	学習機提供の	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭教育への理解を深める研修事業を充実する。</li> <li>●家庭教育を担う保護者が必要とする情報を発信する（情報誌やインターネットなど各種メディアの活用）。</li> <li>●「家庭教育学級」など、家庭教育への意識を高める学習活動を支援する。</li> <li>●子育てサークル等の育成と支援を充実する。</li> </ul>	<p>家庭教育学級が主体となり実行委員会を組織し、家庭教育研修会の企画から運営までを継続して行うことができた。また、講師謝礼等運営費の一部助成を実施した。</p> <p>『湧く湧く』や町ホームページなど既存の媒体を活用する手段は持っているものの、肝心の保護者が求める情報内容を収集し継続的に発信するにはいたらなかった。</p> <p>（情報源の発掘が課題）</p> <p>教育アドバイザーによる指導・助言を継続している。小中学校の教頭に家庭教育推進員として携わってもらっている。また、運営費の一部助成を実施している。学校単位で保護者同士が共に学ぼうとする意欲や活気の醸成のため、支援を継続している。</p> <p>「ママとキッズのオープンブックカフェ」の取り組みへの支援を行っている。</p>
学習環境づくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>●「家庭教育学級」の全町の小中学校開設を促進する。</li> <li>●孤立しがちな子育て世代を支援するためにボランティアを育成する。</li> <li>●子育ての悩みや喜びをわかちあえる「ママ友プロジェクト」（仮称）を創設する。</li> </ul>	<p>既存の上湧別地区4小学校それぞれの家庭教育学級において、参加者数が増えず運営に苦慮する中、他校の新規設置についても進まないのが現状。学級のない学校についても、家庭教育推進員会議においてPTAの事業を含めて全校で情報交換する場の確保に努めている。</p> <p>道教委が進める、家庭教育学びカフェ推進事業における指導者「家庭教育ナビゲーター」養成研修を受講され、ボランティア登録されている。</p> <p>「ママとキッズのオープンブックカフェ」の取り組みへの支援を行っている。</p>
	連携ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>●花火の打ち上げなど、子どもの誕生日を祝福する地域ネットワークを構築する。</li> <li>●家庭教育を担う保護者の発言が反映されるメディア（情報媒体）を構築する。</li> <li>●子ども支援センターや図書館など、各種関係機関・団体との連携を図る。</li> </ul>	<p>民間有志による「子どもの誕生日を祝う実行委員会」が設立され、平成28年度から地域での花火の打ち上げとハッピーバースデーの放送が行われているが、ネットワークの構築までには至っていない。</p> <p>スマートフォンのアプリによる登録制度の活用が想定されるが、未だ進んでいない状況である。</p> <p>家庭教育研修会では、幼稚園・子育て支援課（保育所）・湧別高校にも周知取りまとめを依頼して運営している。</p>
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる			

(推進目標と推進項目)

少年教育 推進目標	少年は町の未来 夢に向かって力をつけよう
--------------	----------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）
学習機会の提供	● 地域の特性を生かした数多くの体験学習活動を提供し、失敗を恐れず、失敗から学ぶ多くのことを経験する機会を提供することにより、豊かな人間性の養成を図る。	児童宿泊研修会、ふるさと寺子屋塾、子ども会リーダー研修会などを実施し、さまざまな体験学習活動の機会を提供している。これらの活動を通して多くの失敗や成功を経験出来ている。
	● 年に一度は町内の子ども全員が集まる機会を創設する。	青少年指導センターの主催により、全町の小中学生を対象としたスポーツ事業を開催している。特に、湧別地区の各子ども会を取りまとめる連合組織「湧別地区サポート協議会」を立ち上げ、湧別地区からの参加を促進している。
活動等の支援	● 子ども会や青少年指導センターを支援する。	各地区の子ども会やその連合組織である青少年指導センターの活動を支援し青少年健全育成に努めている。
	● 異世代や異年齢との交流機会の拡充により、コミュニケーション能力の向上を図る。	生きがい大学や寿学級生による小学校の総合的な学習への支援など高齢者の持つ豊かな知恵・技術を活用する場の提供に努めるとともに相互の交流を行っている。
学習環境づくり	● 小学生や中学生のリーダー養成と活用を図る。	年に2回のリーダー研修会を開催し、地域子ども会が自主的、主体的な運営と活動が進められるよう、地域子ども会の役割を認識させるとともに、リーダーとしての心構えや目覚を促し、そのために必要な知識や技術の習得を図っている。
	● 地域の成人指導者の活用を図る。	青少年指導センターの青少年指導員や百人一首実行員会の指導者等、その分野で精通した指導者を発掘及び育成し、青少年のために活動を行っている。
連携・ネットワーク	● 小学生～中学生～高校生～青年が連携できるよう、青年層からボランティアを積極的に受け入れ、次世代につながる指導者の養成を図る。	自主的な活動を展開している青年団体協議会の活動支援を行い、子どもを対象とした冬季事業などを開催し、地域を活性化する活動を行っている。
	● より学習効果が得られるよう学校と社会教育が連携・融合した事業を推進する。	小学5年生を対象とした児童宿泊研修では、学校の担当教諭との打ち合わせを事前に行い、より魅力的なプログラムとなるよう検討している。
	● 小中学生の学力・体力向上に向けた生活習慣改善の取り組みに協力する。	小学生低学年を対象にチャレンジスポーツを開催し、日頃、接することの少ない様々なスポーツの楽しさを味わってもらおう。
	● 児童センターをはじめ関係機関との連携を図る。	児童センターで行っているカルタ教室の参加児童に対し、教育委員会主催のカルタ大会への参加の呼びかけを行うなどの連携を図っている。

人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる

(推進目標と推進項目)

青年教育 推進目標	青年は町の原動力 自らを磨き高めよう
--------------	--------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）
学習機会の提供	●各種研修会等の情報を提供し参加を奨励する。	関係機関に案内を行うとともに生涯学習情報誌や各公共施設に掲示する等の方法により情報提供を行い、参加を推奨している。
	●成人式を開催し、新成人の社会人としての意識の高揚を図る。	新成人を祝い励ますとともに、式を契機に社会人としての意識高揚を図るため、式典を開催している。小学6年生に対し、「20才の自分へ」というタイトルの作文を募集し、成人式当日に配布している。
活動等の支援	●高校生の社会参加活動を奨励・支援する。	高校生リーダークラブ「Rainbow prop」や湧別高校ボランティア同好会等と連携し、社会教育事業の参加や研修会の参加を支援している。
	●青年団体協議会が行う自主活動を支援する。	年間の活動に対して助言等を行うとともに、青年会館の提供や運営費の補助を継続している。主催事業の「雪中ドッチボール大会」では、子ども会会員から事業の参加者を募り、大会当日の支援を行っている。
学習環境づくり	●地区研修事業等への参加を奨励する。	遠軽地区青年研修事業は平成25年度廃止された。青年団体協議会は上部組織に所属していないため、近年は大会等へ参加していないが、青年を対象とした各種研修会の情報提供を行うなど、参加を推奨している。
	●各青年組織のリーダーが集い、学習する機会と組織化を支援（まちづくり青年会議の創設）。	町部局で進める「産業間連携まちづくりワークショップ」では、商工会・漁協・農協などの青年・女性組織が協議する場が提供されている。しかし、各青年組織が1つのテーマについて語り、学び合う「まちづくり青年会議」は創設できていない。
	●若い女性の社会参加を図る。	未婚女性を対象とした事業展開は進んでいないのが現状。社会教育が果たすべき役割を模索している。
	●団体リーダーの養成と活用を図る。	青年団体協議会の自主的な活動の中からリーダーの養成を図った。また、屯田セタまつりやクロカン大会などの地域活動への参加を図った。
連携ネットワーク構築	●地域活動への参加を奨励する。	
	●各青年組織の交流を奨励し、連携・ネットワーク化を促進する。	商工会青年部の主催イベントに漁協青年部、JAゆうべつ青年部、JAえんゆう青年部、上湧別青年団体協議会が協力するなど青年同士の連携が見られている。

人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる

(推進目標と推進項目)

成人教育 推進目標	成人は町の大黒柱 すすんで地域に関わろう
--------------	----------------------

項 目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）
学 習 機 会 の 提 供	●幅広い学習ニーズに応える学習機会の提供と学習意欲を喚起する。	生涯学習情報紙で、主催事業のみならず関連する情報の周知にも努めている。生涯学習に関する相談にも応じている。
	●ふるさとを学ぶ機会を創設する。	ふるさとから学ぶ会との共催事業として「ふるさと講座」を開催し、湧別町にこだわった歴史、産業、地域等について学ぶ機会を提供する。
	●既存事業（町民大学等）の魅力を広く伝える。	広報、新聞等で町内外に広報活動を行うとともに、多くの町民が参加したいと思う町民大学を目指し、魅力ある講師や旬の講師を実行委員会の目線で招聘している。
	●地域に関する学習機会を提供する。	ふるさとから学ぶ会との共催事業として「わが町のお宝をたずねる旅」を開催し、町にあるお宝の魅力、すばらしさ、価値を知る方々の案内で、町のお宝を紹介する機会を設けている。
	●社会教育各種団体等へ支援を図る。	はまなすボランティア、PTA、各実行委員会等それぞれの活動に応じた支援をしている。
	●おたがいの仕事や暮らしぶりを知り、地域を知ることにつながる学習活動を支援する。	「ふるさと講座」では漁業や医療をテーマとするなど、それぞれの立場において地域の産業を学びあう機会となっている。
活 動 等 の 支 援	●自らが企画し実践する活動の支援を充実する。	生涯学習住民活動推進事業により、町民によるグループ・サークル等が自主的に町民に対して行う講演会や鑑賞会などの学習活動に対して助成を行っている。
	●既存事業のイノベーションを図る。	各事業とも反省評価を行い内容の検討を繰り返すことで、常に変化するニーズの把握に努め、魅力ある事業展開に努めている。
	●行政と住民の協働事業を推進する。	実行委員会等の団体と教委とが同じ目的意識を持って事業に取り組みめるような関係作りに努めている。
学 習 環 境 つ づ け	●参加者に関会日時や託児サービスなどを配慮した事業を行う。	年間の事業が、ある時期に集中したり重ならないよう配慮している。また、町民大学においては講演内容によって託児所を設けるなどの配慮をしている。
	●学習を支援するコーディネーターを育成する。	難しい課題であり、進んでいない状況。
	●各種団体間の交流を促進する。	計画的、組織的な交流促進には至っていない。
連 携 ・ ネット	●関係機関との連携を図る。	都度、必要に応じて連携を図りながら事業展開している。

人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる

(推進目標と推進項目)

高齢者教育 推進目標	高齢者は町の知恵袋 豊かな経験を地域で生かそう
---------------	-------------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況(ふりかえり)
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生かがい大学、寿学級を開設し、高齢者が生かがいと充実した生活を送ることができるよう学習と活動の機会提供に努めている。</li> <li>● 知識や知恵をもった高齢者から学ぶ機会を創設する。</li> <li>● ふるさとを伝える機会を創設する。</li> </ul>
	活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生かがい大学・寿学級の参加者による自主活動の促進と充実を図る。</li> <li>● 次の世代に伝承する異世代間交流事業を充実する。</li> </ul>
学習環境づくり	学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 寿学級生のクラブ活動を中学生が体験する事業や、生かがい大学生による小学生を対象とした昔の遊び体験事業を実施している。</li> <li>● 寿学級運営委員会や生かがい大学役員会で、学級・大学の運営について学級生と職員が一緒に考える中から、アイデアやニーズを吸い上げる仕組みをとっている。</li> </ul>
	連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 交流レクレーション及び昼食会、合同講演会を通し、生かがい大学生と寿学級生の交流を図るとともに、統合準備委員会を設立し、平成30年度の統合を目指して協議を進めている。</li> <li>● 生かがい大学と寿学級の相互交流を促進する。</li> <li>● 生かがい大学・寿学級と他団体との連携を図る。</li> <li>● 他町の高齢者学級との交流を実施したほか、小学校の異世代交流や「寺子屋塾」の農園活動などを実施している。</li> </ul>

(推進目標と推進項目)

芸術・文化活動 推進目標	芸術鑑賞と創造的文化活動を推進し、豊かな心を育てよ
-----------------	---------------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）
芸術・文化の 振興	● 町民ニーズをふまえた上で、質の高い芸術文化作品の鑑賞機会の提供に努めます。	良いもの見よう聞こう会と企画委員会ビッグ・ウェーブの2つの芸術鑑賞団体を中心に、年間10回程度の一般向け芸術鑑賞事業を実施しています。また、児童生徒向け芸術鑑賞事業は、教育委員会主催で計画的に実施しています。
	● カルチャークラス、各種体験事業などの実施により、芸術・文化に親しむ機会を提供します。	子ども陶芸教室、木工教室などを実施しているほか、子どもミュージカル体験事業では、プロの劇団員から直接指導を受けてレベルの高い体験事業が行われています。
	● 町民ギャラリー等を利用した展示会の開催及び奨励をはかります。	随時、ギャラリー等を利用した作品展示会実施の相談、支援を行なっています。また「湧く湧く」で利用のPRもしました。
活動等の支援	● 各種文化団体・サークルの活動を支援します。	文化連盟とその傘下団体等の活動を支援し、文化活動の振興を図りました。
	● 湧別・上湧別の文化協会の相互交流により、文化連盟の活動を支援します。	各々の地区での活動が中心となっていますが、研修会や交流会を合同で開催するなど、交流する機会が増えてきています。
	● 芸術文化奨励事業補助等制度の活用促進に努めます。	2つの芸術鑑賞団体を中心に年間10回近い事業が、この制度を利用して実施されています。
環境づくり	● 各種ワークショップの開催により、文化活動に携わる町民の技術向上に努めます。	子どもミュージカル体験事業は、リピーターの参加者が多く、技術の向上が認められます。
	● さざ波・TOM両文化センターの機能充実と有効活用に努めます。	老朽化した設備を随時更新し、重大な故障や事故を防ぎ減らすことができました。 くさざ波＞音響設備、吊物設備、建物塗装 <TOM＞音響設備、調光設備
	● 各種文化団体の活動支援により、文化センターの利用促進をはかります。	各地区総合文化祭での利用を始め、両文化センターを利用した文化活動が行なわれました。
連携・ネットワーク	● 芸術・文化活動の指導者・リーダーの養成に努めます。	計画的組織的な養成はできませんでした。
	● 芸術・文化事業の情報提供に努めます。	「湧く湧く」を中心とした町広報、町ホームページの他、関連する鑑賞事業では、新聞折込や新聞広告などを活用し、広く情報の提供に努めました。
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる		● 町内関係団体をはじめ、道や他市町村、北海道文化財団、北海道文化財団、道文化財団、北海道などから助成金をいただき、芸術鑑賞事業を実施するなど、関係機関との連携を図りました。

(推進目標と推進項目)

図書館活動 推進目標	図書館は町の情報拠点 楽しく学び支え合おう
---------------	-----------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）
人、自然、ふるさとしから学び、地域と共に生きる	図書館資料の収集、整理・保存	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 町民の読書傾向をふまえた計画的な図書館資料の選択、収集に努めます。</li> <li>● 時代に適し、常に新鮮で適切な蔵書構成を維持するための管理に努めます。</li> <li>● 貴重資料のデジタル化を推進します。</li> </ul>
	利用促進、読書機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調べものの相談、案内を通して利用促進を行います。</li> <li>● 読書への興味を育てる環境整備を工夫します。</li> <li>● WEB OPAC（インターネットによる蔵書検索・予約）機能の備えた図書館システムの更新を行い、利用者の利便性を高めます。</li> <li>● 図書館情報の周知を徹底します。</li> <li>● 司書の専門性をさらに高めるための機会を拡充します。</li> <li>● 図書館に頼しむための事業推進に努めます。</li> <li>● 移動図書館の有効活用の再検討を行います。</li> </ul>
	地域・社会との交流・団体活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 巡回時間、ステーションの見直しを行った。</li> </ul>
	連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 図書館職員と学校図書館担当教諭との密接な協力体制を整えます。</li> <li>● 子育て支援に関わる機関等との連携を一層強化します。</li> <li>● 様々な施設との連携を持ち、図書館情報の発信、提供を行います。</li> <li>● 図書館ボランティアとの相互支援に努めます。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 朝読書、読み聞かせ会の協力や調べ学習、図書館見学、職場体験の受入事業を行った。</li> <li>● 読書感想文感想画コンクールを実施し、学校図書館運営相談の受入や「図書館利用ガイド」を発行した。学校図書館支援活動を開始した。</li> <li>● 児童センター等の読み聞かせ事業を行った。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講読事業、特別展示を行った。「ブックスタート」「絵本くらぶ」「読書会」「映画会」事業を実施した。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特別開館を実施した。</li> <li>● 中湧別図書館のドア修繕、両図書館の図書配置の見直しを行った。古本コーナーを設置した。</li> <li>● H26年に新蔵書管理システムを導入した。</li> <li>● 「図書館だより」「新着図書案内」「ブックガイド」を発行した。町ホームページ、広報、かわら版、「湧く湧く」に図書館情報を毎月掲載した。</li> <li>● 司書職員が管内外の研修会等に参加し、各種事業の内容に反映した。（講座事業、読み聞かせ会、ポップ作り、本の修理作業）</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 予約、リクエスト、調べもの、読書相談を受付ながら、来館者とのコミュニケーションを図った。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 郷土史研究会に協力し、H25年に郷土史「故郷の人 竜宮街道」「故郷の人 亜麻工場の思い出」を発行した。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 蔵書点検を実施し、利用状況や、長期的展望に立って除籍作業を行った。</li> <li>● 除籍後は、古本市事業を実施し、資料の有効活用を図った。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 蔵書構成を見極めながら、司書が選書し収集を行った。</li> <li>● 受入図書数 H25年 4,663冊、H26年 5,778冊、H27年 4,940冊</li> </ul>	



(推進目標と推進項目)

博物館活動 文化財保護活動 推進目標	地域の文化財の保護・保存環境の整備 ～ふるさとの豊かな財産を活かそう～
--------------------------	--

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況(ふりかえり)	
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●次世代へとつなぐために埋蔵文化財の保護環境の整備に努めます。(将来への投資)</li> <li>●北海道指定文化財シブツナイ遺跡の保全に努めます。(将来への投資)</li> <li>●収蔵している石器、土器類の分類整理をすすめ、湧別地区の先史文化の調査研究を行います。(白滝ジオパークとの差異)</li> <li>●天然記念物オジロワシの生息地に関する情報の蓄積と専門からの意見収集に努めます。</li> <li>●北海道指定文化財であるアッケシソウ群落の保護のため、塩生植物に関する情報の収集に努めます。(基礎情報の収集、展開は次回)</li> <li>●資料の整理分類をすすめて、特に重要な資料に関しては、データベース・目録等の作成を行い情報公開に努めます。(屯田文書資料、明治から昭和20年代までの写真資料)</li> <li>●日常生活への応用を資料に関する調査研究を進めて、展示・教育普及活動へ活用します。</li> <li>●先史の展示の充実に努めます。(郷土館)</li> <li>●次世代を担う子供たちに理解しやすい展示づくりを行います。</li> <li>●町の現在の姿がわかる展示づくりに努めます。(郷土館・JRY)</li> <li>●体験できる展示を増やします。(JRY)</li> <li>●収蔵資料の安定的保存のために常設展示での収蔵展示をすすめます。(収蔵庫建設計画)</li> </ul>	<p>既存の遺跡包蔵地の地番・地権者再確認作業の実施(継続中)</p> <p>平成27～29年度実施の道教委測量調査を支援。</p> <p>湧別市川遺跡遺物を中心とした資料確認作業と分析の実施</p> <p>オジロワシ等の天然記念物については環境省が所轄であるために、水産林務の担当となった。(平成26年)教委では現状変更(剥製の売買等)のみに対応することとした</p> <p>経過観察中。またアッケシソウの専門家を調査中。</p> <p>計呂地収蔵庫の廃止による資料の上小横収蔵庫への移動が平成28年8月12日完了。それになら、内部整理作業が進行中。明治期の写真類は整理作業を完了。明治期の文書資料については平成29年度内に整理作業を行う予定。(先史別項)</p> <p>石器資料の分析により当時の生活環境の推測を行い現代生活との対比を分析中。明治開拓期の冬季生活文化について調査し、現代の応用を検討中。</p> <p>平成27年度「シブツナイ2遺跡展」北方民族博物館共催によって「川西オホーツク遺跡展」を実施。また「湧別市川遺跡資料」を常設化した。</p> <p>先史文化に関する解説パネルを追加。写真パネルの作成を企画中(平成29年度)</p> <p>アイヌブームの展示を追加。湧別町合併の歴史を展示。常設展示の更新整理。</p> <p>安全性の配慮、資料の保護等を考慮し、学校教育時の体験学習で代用</p> <p>ふるさと館JRYの建物の芸術性を尊重するために内部整理簡素化を検討。収蔵庫の充実に転換。</p>	
	学びの資料・情報づくり		
	学びの場の提供		

	<p>●文化財（埋蔵文化財・記念物）を知る機会提供に努めます。</p> <p>●先史・開拓を知る体験学習を拡充します。</p> <p>●学校利用の促進に努めます。</p> <p>●出張学習の内容充実にも努めます。</p> <p>●学芸員の専門性・教育力を高めるための機会を拡充します。</p> <p>●広報を活用し、博物館活動の周知に努めます。</p>	<p>遺跡見学を含めた先史文化学習プログラムの試行実施。</p> <p>土器づくり、勾玉づくりによる先史文化の学習、薪による炊飯による開拓期食・薪焼・燃料についての学習等を実施</p> <p>年間50件程度の見学体験の対応を行っているために特に促進の必要はないと考える。今後はカリキュラムの変化、少子化等で利用件数は減少するであろう。内容の充実にも重点をおきたい。</p> <p>出張授業における先史資料の提示のための機材を充実。実物資料に触れる機会を増やした。</p> <p>生涯学習学会での発表等を行い、対外的評価を受け専門性、教育力を高めている。</p> <p>先史文化への理解ため、多彩な情報を掲載した。</p>
--	--	--

学びの機会提供

(推進目標と推進項目)

<p>スポーツ振興の推進目標</p>	<p>スポーツは健康のみならず、いつまでもみんなで楽しもう</p>
<p>項目</p>	<p>課題解決のための方策</p>
<p>生涯スポーツの普及</p>	<p>方策に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）</p> <p>小学校低学年に対するチャレンジスポーツスクール、学生に対するストレッチやランニング教室、一般向けに各種教室やスポーツ大会のほか、高齢者でも気軽にできるノルディックウォーキング教室の実施など、各年代それぞれのライフステージに合った事業を行うことで、健康や体力づくりの増進が図られた。</p> <p>● ライフステージに合わせた各種教室、講習会、大会などスポーツに親しむ機会を提供し、健康や体力づくりの増進と住民相互の交流の推進に努めます。</p> <p>● 多種多様なスポーツニーズに対応するため、ニュースポーツの研究・普及に努めます。</p>
<p>活動等の支援</p>	<p>自主的な活動を支援するための補助を適正に行うことができた。</p> <p>● 体育協会やスポーツ少年団など関係団体の育成と自主的な活動支援に努めます。</p> <p>● 健康・コミュニティづくりのため、身近な地域でのスポーツ活動支援に努めます。</p> <p>● 学校の施設を一般市民に開放し、スポーツの日常化と健康の維持増進に努めます。</p>
<p>学習環境づくり</p>	<p>指導者不足問題は小規模市町村では大きな問題となっており、本町も例外ではなくこれといった対応は取れない状況である。この問題の解決方法については、町内で活動している各団体やスポーツ推進委員等と連携しながら考えなければならぬ。</p> <p>● スポーツ団体の指導者やリーダーの養成を図り、指導体制の充実を努めます。</p> <p>● スポーツ・文化遠征補助制度の活用により、全道及び全国大会への参加促進に努めます。</p> <p>● 外部指導者等の招聘により、高度な技術習得の支援に努めます。</p> <p>● 町民が身近でスポーツに親しむための環境づくりに努めます。</p>
<p>連携・ネットワーク</p>	<p>毎月1回開催しているチャレンジスポーツスクールや、町内で開催される大会等への支援など、町内におけるスポーツの推進に努めていただいた。今後は多種多様なスポーツニーズに対する研究、それらを発信できる場を創出するために、一層の連携を図ってきたい。</p> <p>● スポーツ推進委員の連携強化を図り、スポーツの推進に努めます。</p> <p>● 体育協会やスポーツ少年団、自治会、関係団体等との連携強化とネットワーク化を図り、スポーツの振興に努めます。</p>

(推進目標と推進項目)

生涯学習の基盤整備推進目標	生涯学習の基盤整備は社会教育のかなめ、いつでも、どこでも、だれでも参加し楽しもう
---------------	--

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）
学習推進体制整備	●住民の様々な学習活動がより効果的になるよう関係機関や団体との連携強化に努めます。	社会教育関連事業の周知に努めるなど、これまでどおり関係機関や団体との連携強化に取り組んでいる。また、団体が自主的に学習活動を行うための人的支援、場所の提供、金銭的支援のほか、生涯学習情報紙の発行や相談体制の充実を図っている。
	●総合的に生涯学習を推進するための体制整備に努めます。	
施設整備・活用・連携・活動	●住民のニーズを踏まえながら、利用しやすい施設の整備・機能充実や効果的な管理運営に努めます。	指定管理施設については、指定管理者への指導助言を行っている。また、指定管理施設とそれ以外の施設についても連携を強化し、効果的な活用を図るなど学習サービスの向上に努めている。
	●施設間の連携やネットワーク化により、学習サービスの向上に努めます。	
学習情報の収集提供・相談体制の充実	●住民の学習活動を支援するため、生涯学習情報の収集・提供に努めます。	生涯学習情報紙、町広報、町ホームページ、遠軽地区なななんと情報を活用し、情報提供している。町民が必要としている情報(ニーズ)を的確に把握するとともに、知らせるべき内容を明確化し、わかりやすい紙面づくりに努めている。
	●多様化する学習ニーズに際し、住民の学習活動が円滑に行われるよう相談体制の充実に努めます。	
指導者の養成・活用・団体活動支援	●住民の多種多様な学習ニーズに対応するため、様々な分野から指導者を発掘、養成し、人材の活用に努めます。	人材育成に向けて、活動の機会や情報の提供に努めているものの、計画的・組織的な指導者養成はできていない状況である。
	●生涯学習振興奨励事業補助金活用により、自治会やサークル等が自主的に学習活動を行う支援に努めます。	
連携・ネットワーク	●ボランティアを育成するとともに、活動の支援に努めます。	生涯学習振興奨励事業補助金の適正な活用により、自治会やサークル等の自主的な学習活動に対する支援に努めている。(自治会向けは、平成27年度をもって終了)
	●社会教育委員、スポーツ推進委員、図書館協議会委員、各団体、町名部局、地域、学校との連携強化とネットワーク化を図り、生涯学習活動の推進に努めます。	

人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる

## 平成29年度各種研修会等の予定について

研修会等	月日	会場	内容	期待人数
遠紋地区社会教育委員研修会	9-10月	湧別町	遠紋地区委員対象の研修会	12
管内社会教育振興セミナー	未定	網走市	管内の委員対象の研修会	5
北海道社会教育研究大会	9/12-13 火-水	札幌市	全道の委員対象の研修会 今回は全国大会と全道委員長等研修会を兼ねる	6
地域生涯学習活動実践交流セミナー	2月	札幌市	全道の職員中心の研修会 講演、優良事例発表、分科会	2

会議	月日	会場	内容	出席
社会教育委員会議（定例会）	4月、10月 12月、3月	町内	事業計画策定、事業評価など	全員
管内社会教育委員連絡協議会	5月中旬	網走市	総会	委員長
中期計画策定委員会（専門部会）	4回程度	町内	中期計画の策定	各部会

その他自主研修会等（無報酬）	月日	会場	内容	出席
「社会を明るくする運動」ミニ集会	7月	町内	民生委員・保護司会主催 （報酬等支給の対象外）	希望者
成人式	1/7 日	さざ波	式典に来賓として出席	希望者